

越後ごぜの組織と業態

「瞽女(こじょ)」と書いて「ごぜ」と読む

板垣俊一

瞽女(ごぜ)とは

盲目の旅する女性芸能民

女性

盲目

芸能

旅

1 「選択無形文化財」の保持者 となった越後瞽女

故杉本キクイ(1898~1983)

1970年に高田系瞽女唄伝承者として、国の「記録
作成等の措置を講ずべき無形文化財」に指定された

故小林ハル(1900~2005)

1978年に長岡系瞽女唄伝承者として、国の「記録
作成等の措置を講ずべき無形文化財」に指定された

杉本キクイの無形文化財選択書



2 全国的に見た瞽女の存在



瞽女の存在が確認できる県

各地のおもな瞽女(ごぜ)仲間

駿府瞽女 (静岡)

沼津瞽女

久須見瞽女 (東濃地方)

三河瞽女

飯田瞽女 (信州南部)

松本瞽女

加賀瞽女

高田瞽女

長岡瞽女

一般に瞽女長屋に住む



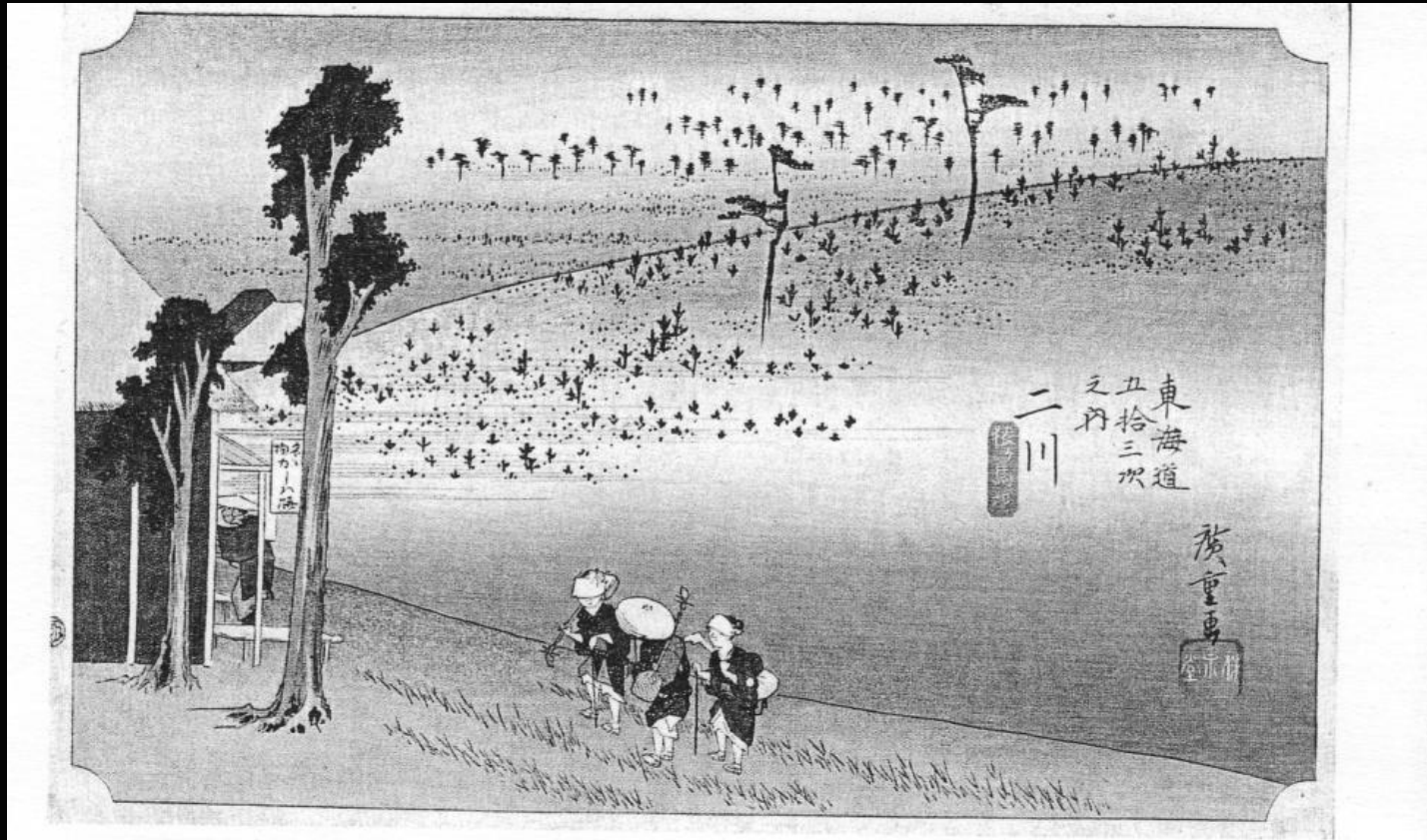
3 絵に描かれた江戸時代の瞽女



瞽女の図 菱川師宣画『和国百女』(元禄八年刊)

菱川師宣画『和国百女』(元禄八年刊)

絵に描かれた江戸時代の瞽女(3)



122 東海道五拾三次之内 二川 猿ヶ馬場

原安三郎秘蔵浮世絵風景画コレクション図録『北斎と広重展』(2005)より

歌川広重画 東海道五拾三次 二川猿ヶ馬場

4 城主に招かれた瞽女の例

- 越後村上城主松平大和守の日記、寛文四年(1664)三月条に、宴席で、「京都より来る女小性(さく)仕舞おどりする。**こせ**(さは)しやみせん引き、琴も聞き、なくさみあそふ也」とある。
- ◆江戸時代の前期に大名の宴席に招かれて琴・三味線を弾いた「ごせ」が、組織を形成していたかどうかは不明。

5 江戸時代の盲人組織

当道座

男性盲人組織(全国的)

このほかに盲僧組織もあり

瞽女仲間

女性盲人組織(各地方組織)

組織に属さない盲人たちもいた！...後述

6 組織の要点

当道座

- 組織の開祖
- 信仰する神仏
- 祭儀
- 組織の頭
- 身分制度
- 規律

瞽女仲間

- 組織の開祖
- 信仰する神仏
- 祭儀
- 組織の頭
- 身分制度
- 規律

組織の開祖／信仰する神仏

- **当道式目**

開祖：天夜尊（仁明天皇第四宮仁（人）康親王）

神仏：賀茂明神・弁財天

- **瞽女縁起**

開祖：相模の姫宮（嵯峨天皇第四宮）

神仏：下賀茂大明神・如意輪觀世音

妙音菩薩・弁財天

7 瞽女縁起＝院宣・式目を含む

- 縁起 瞽女の起源、しきたりを説く。
始祖の皇女・神仏の靈験・瞽女五派
階級・規律など
- 院宣 嵯峨天皇の院宣
如意輪観音・弁財天・下賀茂明神を信ぜよ
武士・庄屋・名主・在家に喜捨を求めよ
- 式目 組織と規律のこと
仲間の頭目・刑罰・師弟関係など

▼これらは男性盲人組織当道にならったもの。

瞽女縁起の末尾例



上越博物館所蔵 上越の浜瞽女が残したもので、
ほかに弁財天の掛け軸もある(原佐野家所蔵)

8 瞽女は全国組織ではなかった

- 武州忍領より河越播磨派え伝之者也

嘉永辛亥四年五月之写書

(佐野家所蔵の浜瞽女所持「縁起」奥付)

◇瞽女五派 = ミョウカン、カシハ、ハリマ、ゴゼン、ヲミノ 「縁起」にはこのような派が見えるが

平曲相伝の五派 : 一方一志道派・戸島派・玄正派、城方一大山派・妙文派から思いついたものだろう。

瞽女五派の祖を皇族や城主として権威づけたもの

9 瞽女の祭式・妙音講

- 瞽女縁起の読み聞かせ（組織の連帯強化）
- 不行跡の瞽女の処罰
- 旅回りの範囲の調整
- 芸の向上対策（弁財天への祈り）
- 仲間との慰安

▼妙音講は仲間組織を確認する場

高田瞽女の妙音講



昭和初期の妙音講

昭和初期の高田天林寺での妙音講

10 越後の瞽女仲間

藩主の城下に本拠を置く

- **高田瞽女** ※芸名は2文字
個々の親方が自立して家を構え弟子を養子とする
- **長岡瞽女** 芸名は2文字か
個々の親方が実家において弟子をとり、長岡の瞽女屋に地域を束ねる瞽女頭（山本ゴイ）が存在する
- **糸魚川瞽女** ※芸名は4文字
瞽女仲間屋敷三ヶ所に十四五人が暮らしていた
(天保七年文書) 信州の飯田瞽女も瞽女長屋に住む

高田瞽女杉本キクイ家族

左から

杉本キクイ

同 シズ(養女)

不明

難波コトミ(手引き)

(年齢からみて1940年
前後の写真か)



組織間の対立

妙音講は組織に属する瞽女たちの利害調整の場であったが、ほかの瞽女仲間との境界では旅回りの権益をめぐる対立があった。

〈事例〉

高田瞽女と糸魚川瞽女との対立

—名立を境界とする—

飯田瞽女と久須見瞽女との対立

—神坂峠を境界とする—

◇ 瞽女の業態 ◇

- 旅回りする範囲(縄張り)をめぐる対立

すなわち //

門付けによって収入を得る村方の範囲

○門付け…瞽女と祝福芸

瞽女の年始:濱谷浩写真集より →



瞽女宿

- 旅回りする瞽女たちには泊まり付けの民家があった。無償で泊めるのが慣わし。夜は宿で歌の演奏を披露。

(右は1971年5月能生町
島道鉦泉にて一杉本
キクイ他)



11 江戸時代の業態例

頸城の浜瞽女

市川信次編「越後瞽女溺死一件」より

- 農村部の旅回り・門付け
- 都市部での座敷演奏
- 弟子は実家に暮らす（旅回りを一緒にする）
- 男性盲人への依存



参考：名古屋の武士朝日重章著『鸚鵡籠中記』
宝永三年(1706)十一月条に男性盲人が
瞽女の師匠になっている例あり。

12 瞽女と一般盲女との利害対立

- 音曲は盲人の職業
- 音曲芸能に携わるすべての盲人が瞽女だったわけではない！
- 文化十五寅年四月付、高田瞽女文書「乍恐以書附奉願上候」... **瞽女の権利意識**



ここからうかがえる城下での業態

- ◆ 琴・三味線の稽古場(教室)を開く
- ◆ 座敷へ出て演奏する

13 瞽女仲間の存在意義

- 組織維持による芸の継承と営業権益の確保

弟子入りした盲女は師匠から芸を授かる
そのかわり瞽女仲間の成員となって組織を守らなければならない。←規律違反者への厳しい処分。

芸の伝授＝年季の設定

組織維持＝男女関係の禁止

終わりに

配当の保護が無くなった明治期に、越後瞽女が最も隆盛期を迎えるのはなぜか？

- ◆村落の旅回りにも配当の観念があったと考えられるが、そのほか瞽女に対する祝福芸への期待、聖なる来訪者信仰、娯楽の提供者として迎えられたからであった。